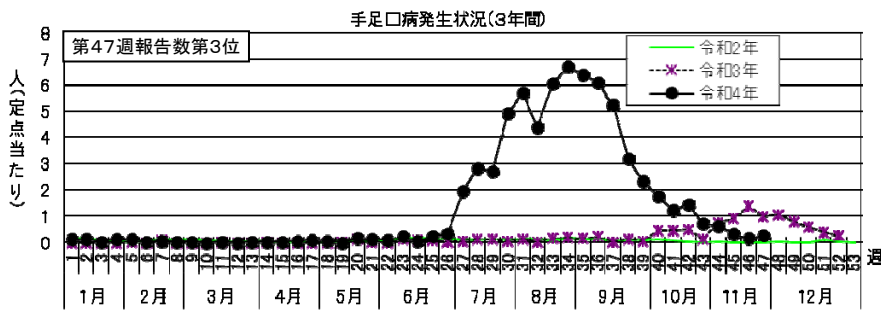
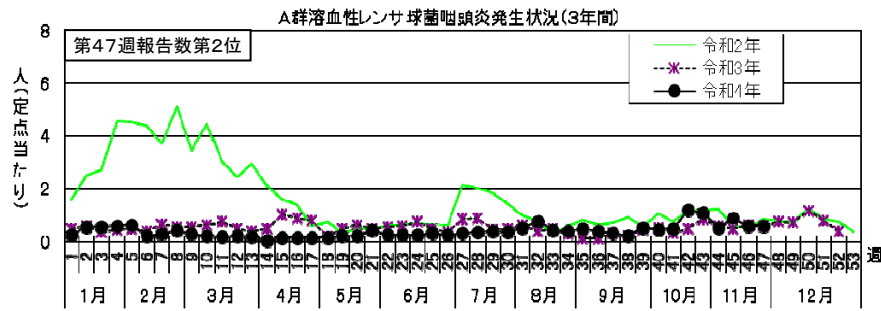
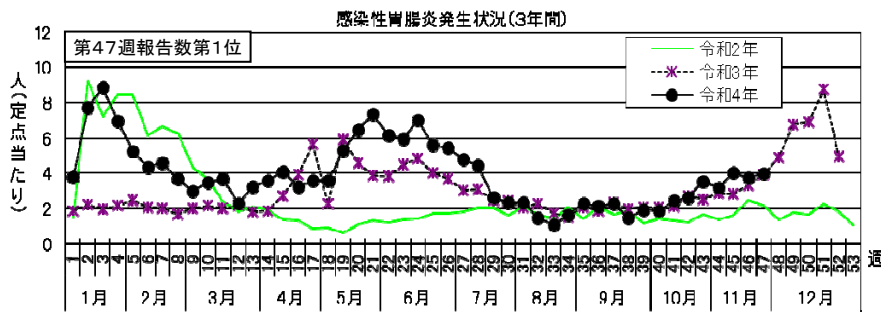


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年11月21日（月）～令和4年11月27日（日）〔令和4年第47週〕の感染症発生状況

第47週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病・突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.97人と前週（3.76人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.57人と前週（0.57人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。手足口病の定点当たり患者報告数は0.27人と前週（0.16人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.27人と前週（0.35人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



百日咳～予防のためにワクチン接種を～

百日咳は、百日咳菌を原因とし、特有のけいれん性の咳発作等を引き起こす細菌感染症です。ワクチンの普及とともに報告数は大きく減少し、近年の新型コロナウイルス感染症流行に伴う感染対策の影響を受けて、報告数はさらに減少しました。しかし、川崎市においては令和4年は第47週（11月21日～11月27日）までに計5件の報告があり、今後は社会活動の再開とともに、再び増加する可能性もあります。

百日咳は、生後6か月以下の乳児が感染すると重症化しやすく、時に死亡する場合もあるため、ワクチンの初回接種（現時点では生後3か月～）は非常に重要です。定期接種として定められた期間内に、必ずワクチンを接種するようにしましょう。

百日咳とは？

【感染経路】

咳やくしゃみ等による飛沫感染、接触感染

【潜伏期間】

通常5～10日間（最大3週間程度）

【主な症状】

- かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。
- 短く激しい咳が連続して起こり、息を吸う時に笛のような音が出る咳発作がみられる。

【予防方法】

百日咳含有ワクチンの接種（DPT-IPVなど）



川崎市における百日咳の発生状況
平成30年第1週～令和4年第47週



百日咳含有ワクチンの定期接種スケジュール (令和4年11月時点)

●4種混合ワクチン

初回接種：生後3～12か月の間に、20～56日の間隔をおいて、計3回接種

追加接種：初回接種終了後、6か月以上の間隔をおいて、1回接種